

安全・安心な医療を提供するために

リスクマネージャー 大倉章代

医療事故につながらないよう医療安全委員会を設置しています。各部門より「ヒヤリとしたことやハットしたこと」などをインシデントレポートとして提出してもらい、原因分析や改善策を検討しています。万が一、医療事故が発生した場合、適切かつ迅速に原因究明と対応策を講じ、患者さんの安全と救命を最優先に対応します。

また、病院内の巡回や館内外の安全点検、インフォメーション、医療安全に関する研修会や報告会などを行い、知識・技術の向上や安全な体制づくりを目指しています。

患者さんとともに進める医療安全
 ● 誤認を防止するため、ご自身で名前を言っていたかどうかお願ひしています。

● 疑問に思ったことは遠慮なくお尋ねください。

受診の際は、お薬手帳を持参しましょう

● 普段から服用している薬がある場合は、説明書やお薬手帳を持参してください。

● アレルギーのある薬があればお知らせください。

● 薬の作用や副作用、使用（服用）方法は、必ず医師や薬剤師に確認しましょう。

地域住民公開講座

参加無料

日時 **10月16日** (水)
 午後2時～3時

場所 国保中央病院 ASUKA ホール

演題 あなたの尿漏れ症状・あなたの尿に関するお悩み…
 解決できるかも（女性編）

講師 吉井将人さん
 （泌尿器科主任部長）

※講演終了後に皮膚排泄認定看護師からのアドバイスや、尿漏れに効果的な運動パンフレットを配布します。
 ※どなたでも参加できます。皆さんの参加をお待ちしています。

町長日記

笠縫駅の省人化

Vol. 44

8月の初旬に近鉄から、笠縫駅の省人化の話があった。もちろん笠縫駅だけではなく、近鉄線全線において駅員の無配置化・省人化が計画されている。磯城郡においては石見駅の無配置化、結崎駅の省人化も含まれている。それにしても何の相談もなく、あまりにも唐突な話ではなかるか。



田原本町長
 寺田 典弘

もちろん近鉄は民間企業であり、経営を第一義の問題と捉えられるのは当然だし、利用者数減による鉄道経営の困窮という理由も理解できる。確かに少子化・高齢化に伴い乗降客数が減少している。笠縫駅でも一日の乗降客数が3千人を下回っている。反面、公共交通機関であるという責任はどう考えているのだろうか。バリアフリー法第1条では「高齢者、障害者等の移動上及び施設の利用上の利便性及び安全性の向上の推進を図り、もって公共の福祉の増進に資すること」を、障害者基本法第21条でも「交通施設その他の公共的施設を設置する事業者は、障害者の利用の便宜を図ることによって障害者の自立及び社会参加を支援するため、当該公共的施設について、障害者が円滑に利用できるような施設の構造及び設備の整備等の計画的推進に努めなければならない」と規定されている。

利用者の安全・安心という観点からも考え直してもらいたい。確かに、欧州では駅員のいない駅が多い。また、東京メトロなどでは駅員は本場に少ない。しかし無人化した駅のホームには線路との間にフェンスが設けられ、電車が到着した時にドアの部分だけが開くようになっていく。ここまでやれとはいわれないが何らかの安全対策は考慮してほしい。特に笠縫駅は近くにリハビリテーションセンターや高等養護学校があり、障害者の利用も多い。何らかの配慮があるべきだ。

この旨を、近鉄本社に磯城郡3町でお願いに行ってきた。また、9月初旬には国土交通省に行き、鉄道局担当の大臣官房審議官にも法整備を含めた規制の要望も行ってきた。いづれにしても関係市町村で連携をとりながら今後とも粘り強く交渉をしていきたい。事故が起こってからでは遅すぎる。